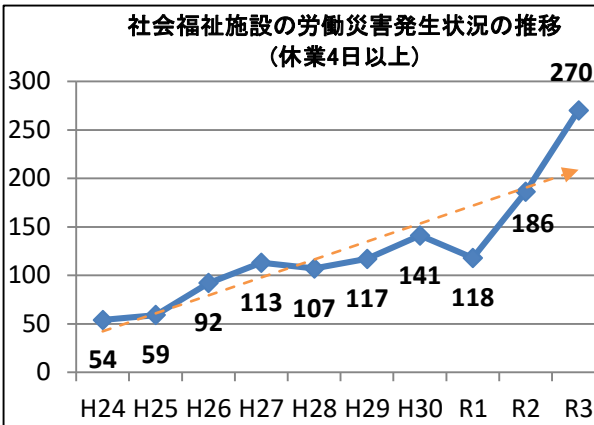


さいたま署管内の社会福祉施設の労働災害発生状況

(令和3年末 確定値)

「安全で安心な店舗・施設
づくり推進運動」実施中

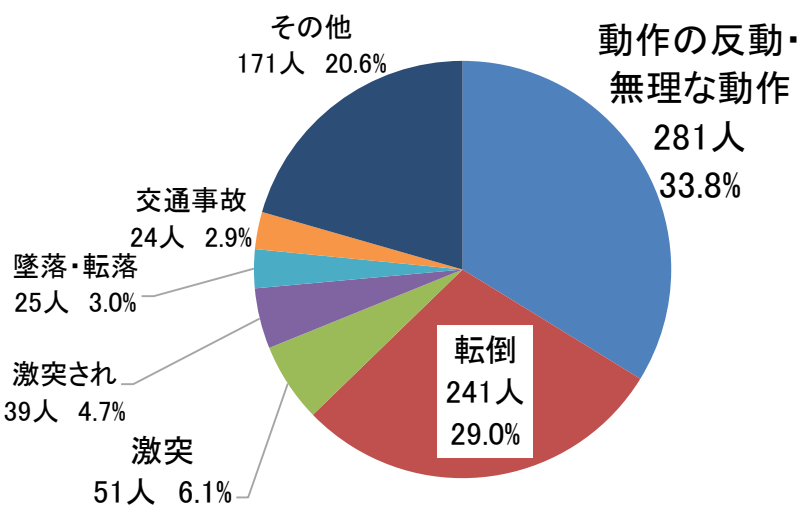
- 1 昨年のさいたま署管内における社会福祉施設の労働災害は前年比+45.2%と大幅な増加となっています。
- 2 社会福祉施設の労働災害は増加傾向にあり、昨年の被災者数は10年前と比べて4倍以上となっています。
- 3 4S(整理・整頓・清掃・清潔)活動で転倒災害を防ぎましょう！「STOP! 転倒災害プロジェクト」
- 4 腰痛予防対策を進めましょう！
- 5 リスクアセスメントでの施設内の危険を低減！
- 6 新型コロナウイルスの職場内感染が発生しています。職場で実施可能な感染症予防対策を講じましょう。



社会福祉施設の 事故の型別 労働災害 発生状況

休業4日以上
さいたま署管内
平成28年～令和3年
(労働者死傷病報告による)

被災者総数
832人



事故の型(種類)別では、①介護中の動作の反動・無理な動作(腰痛など)、②廊下、浴室等での転倒の2つで全体の6割以上を占めています。

その他には、新型コロナウイルス感染症による被災者も含まれており、今後比率が増加していくことが予想されます。

動作の反動・無理な動作のうち、腰痛は年齢層に大きな偏りなく発生しています。

転倒災害では3分の2以上が骨折し、休業見込みも長期にわたっています。

【さいたま署管内の災害事例】

【動作の反動・無理な動作】

- ①利用者を車いすからベッドに移乗介助したときに、腰に痛みを感じた。翌日、腰から両足に激痛があり、歩行できなくなった。
- ②ストレッチャーへの移乗介助の際に利用者を抱えた肩と腕に重圧がかかり、痛みで腕が上がらなくなった。



【転倒】

- ①床に置かれた荷物を避けるため、大きく足を踏み出したところバランスを崩して転倒した。
- ②荷物を持って階段を移動中、つまずいて転倒した。



社会福祉施設の皆様～労働災害防止のポイント～

さいたま労働基準監督署

労働災害を防ぐため、特に次のポイントにご注意いただきますようお願いいたします。
また、作業方法等の、よい例、悪い例のイラストを添付していますので、ご参考にして下さい。

転倒災害防止のポイント

- ① 床面、通路は、くぼみや段差がなく、滑りにくい構造とする。
- ② 床の水たまりや氷、滑りやすい物は放置せず、その都度除去する。
- ③ 履物は、滑りにくく、安定したものを着用する。
- ④ 階段には、滑り止めや手すりを設ける。
- ⑤ 通路、階段、出入口に物を放置しない。
- ⑥ 確認してから次の動作に移ること、走らないことを徹底する。

墜落災害防止のポイント

- ① 踏台、はしご、脚立は、安定した場所で、正しい使用方法で用いる。
- ② 高所作業を行う場合は、適切な作業床、昇降設備を設け、囲い、手すり等を設置する。
- ③ 作業態様により上記②の措置が困難な場合は、安全帯を使用する。

台車による災害防止のポイント

- ① 台車は決められた場所に置く。
- ② 積む荷の形や大きさに応じた台車を使う。台車は押して使う。
- ③ 荷崩れしないよう積む。前が見えない高さまで積まない。最後に降ろす物から先に積む。
- ④ バックヤードでは台車の通行範囲と作業区域が交わらないようにする。
- ⑤ 曲がり角ではいったん停止し、左右の安全を確認する。

はさまれ・巻き込まれ災害防止のポイント

- ① 機械の回転部分等には、囲い、覆い等を設ける。
- ② 機械の点検、清掃、調整作業を行う際は、機械を必ず停止させる。
- ③ 機械に巻き込まれないように適切な作業帽、作業服を着用する。

4S活動を日常的に行い、労働災害を防ぎましょう

【整理】必要な物と不要な物に分け、不要な物を処分する

進め方	<ol style="list-style-type: none">① 不要な物の廃棄基準の判断がつかないときに要不要を判断する責任者を決める。② 区域ごとに、所属従業員全員が掃除し、定期的に不要な物を廃棄する③ 店長等が定期的に巡回し整理の状況をチェックする。④ チェック結果に基づき改善し、また、必要に応じ廃棄基準を見直す。
-----	---

【整頓】必要な時に必要な物をすぐ取り出せるよう、わかりやすく安全な状態で置く




進め方	<ol style="list-style-type: none">① 現状を把握する(品目、置き場所、置き方、使用時の移動距離)。② 置き場所、置く物の種類、必要数量を決定する(種類・量とも絞り込み、移動距離を短くすること)。③ 置き場所ごとの管理担当者を決める。④ 取り出しやすく、しまいやすい置き方を決める。以上のルールに従って整頓する。⑤ 定期的にチェックし、必要に応じ改善する。
-----	--

【清掃】身の回りをきれいにし、衣服や作業場のゴミや汚れを取り除く

【清潔】整理・整頓・清掃を繰り返し、衛生面を確保し、快適な状態を実現・維持する

転倒災害の主な原因

▶ 転倒災害は、大きく3種類に分けられます。皆さまの職場にも似たような危険はありませんか？

<p>滑り</p>  <p><主な原因></p> <ul style="list-style-type: none"> ・床が滑りやすい素材である。 ・床に水や油が飛散している。 ・ビニールや紙など、滑りやすい異物が床に落ちている。 ・路面等が凍結している。 	<p>つまずき</p>  <p><主な原因></p> <ul style="list-style-type: none"> ・床の凹凸や段差がある。 ・床に荷物や商品などが放置されている。 	<p>踏み外し</p>  <p><主な原因></p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きな荷物を抱えるなど、足元が見えない状態で作業している。
---	--	---

転倒災害防止対策のポイント

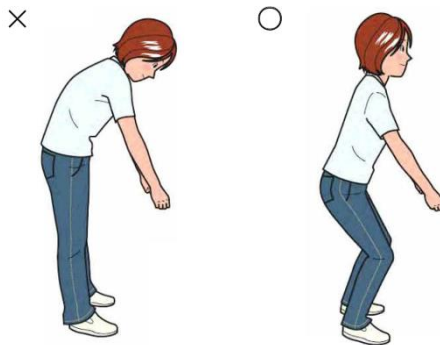
▶ 転倒災害を防止することで、安心して作業が行えるようになり、作業効率も上がります。

4 S (整理・整頓・清掃・清潔)	転倒しにくい作業方法	その他の対策
<ul style="list-style-type: none"> ・歩行場所に物を放置しない ・床面の汚れ（水、油、粉など）を取り除く ・床面の凹凸、段差などの解消 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間に余裕を持って行動 ・滑りやすい場所では小さな歩幅で歩行 ・足元が見えにくい状態で作業しない 	<ul style="list-style-type: none"> ・移動や作業に適した靴の着用 ・職場の危険マップの作成による危険情報の共有 ・転倒危険場所にステッカーなどで注意喚起

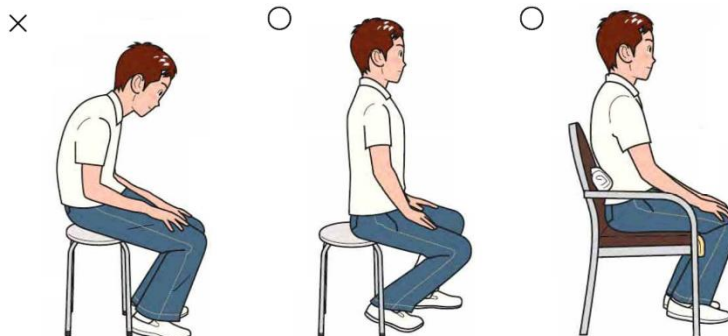
腰痛対策

～作業姿勢と動作～

- ① 同一作業や姿勢が長く続かない、変化のある作業計画を立てます。
- ② 動作時は腰椎の生理的な前弯（最大に腰椎を反った状態から少し戻し、前弯が残っている状態）を保ちます。



- ③ 座位時は腰椎の生理的な前弯を保った姿勢を保ちます



④ 作業対象物や利用者を体に近づけて作業します

×



○



⑤ 作業面の高さに注意します

×



○



⑥ 低い姿勢になるときは膝を曲げます

×



△



○



⑦ 長時間座って作業することは避けます

⑧ 起床後すぐに腰を曲げた姿勢で作業することはなるべく避けます

⑨ 体をねじった状態での負荷は避けます

×



○

